

# 砺波カイニヨ倶楽部会報

創刊号

平成九年五月十二日発行 発行者 砺波カイニヨ倶楽部 代表幹事 柏樹直樹  
事務局 天野一男建築工房内 富山県砺波市表町七・二十五  
TEL0763・33・6588

## □ 砺波カイニヨ倶楽部四十七名で発足

四月十二日 浄光寺（砺波市東保）で「砺波カイニヨ倶楽部」を発足した。総会には約三十五名が参加し、規約・活動案を確認。和田健先生の「屋敷林の美」と題した記念講演を聞いた。また、記念植樹をした後、石崎安次郎氏宅のシダレザクラを見学し満開の歓迎に酔った。

当倶楽部はカイニヨにこだわり、付き合ひ、充実を願って、一層カイニヨ風土を地域に根ざし、発展させることを意図して活動する。カイニヨの有無や老若男女をとわず誰でも参加できる組織。また、カイニヨとの関係を全世代を通して、楽しみ交流する雰囲気をつくることにも心がける。

総会で選出された役員は次のとおりで、主に会員相互の交流を進める連絡、橋渡し役としてはたらく。

〈代表幹事〉	柏樹直樹	尾田武雄	出村忍	台蔵正一	高木美奈子	中田ちづ子
〈幹事〉	新藤正夫					
〈事務局長〉	天野一男					
〈監事〉	和田健					

現会員四十七名は非常に多種多様な方々で、広域区からの参加もあり楽しい活動が期待される。これからの運営は、現在、屋敷林見学会を予定しているが、会員から行事希望を募ることにしている。

## □ 「屋敷林の美」 和田健先生の講演要旨

- 人を育てることと、木を育てることは同じ。N（ねばる）H（ほめる）K（くりかえず）が教える基本だが、木との関係もそれと同じだ。
- カイニヨを語る場合、①過去だけではなく、未来をよんで教える。②お金に例えて対比。③都市文化と農村文化の比較。④視点を整理し、分析的にみる。
- カイニヨのモチーフは「ゆらぎ」だ。無意識のうちに安らぎを得る。
- カイニヨに何かを「つなぐ」↓伝承や生活の知恵を教える。中国の「葉落木根」の思想などを体験的に。
- カイニヨの中の生活を全国にPRするキーワードをみつけよう。住宅が大きく、三点セット（家・蔵・納屋）の配置とカイニヨ存立の美は見事な先人の美意識だ。
- カイニヨの中での自然観を養うことだ。

## □ 柏樹代表幹事の総会での挨拶

- 一. 役員は事業を起こす世話人。
- 一. 屋敷林の専門家や保存樹を持つている方に、いろんな機会の提供や指導をお願いしていきたい。
- 一. 息の長い仕事、全てボランティア、自前負担で。
- 一. 各地域や会員相互で活動を広げよう。

## □ 発足の模様をマスコミが注目

NHK、チューリップ、KNBが放映し、北日本新聞、北陸中日新聞、富山新聞が発足を報道した。  
またその後、ラジオ高岡や北陸中日からも取材があった。

## □ 幹事会の報告

開催日 平成九年四月十八日(金) 午後七時より九時三十分  
場所 事務局 天野一男建築工房内

- 一. 発足会について(会報に記載)
- 二. 今後の倶楽部の進め方について(会報に記載)  
会員主体の倶楽部にするため、希望・意見・情報を求める。
- 三. これからの事業計画について  
意見

- ・カイニヨの見学会
- ・カイニヨの手入れ講習会
- ・大木の見学会
- ・山の散策
- ・出町地区(町の中)の屋敷林の見学会
- ・秋に保育所や幼稚園児と共にカイニヨの中で焼き芋を焼く

## ■ 次回の行事予定

日時 平成九年 七月五日(土) 《雨天決行》  
集合時刻 午後一時 終了予定時刻 午後五時(郷土資料館で)

集合場所 砺波郷土資料館 TEL 0763・32・2339

内容 屋敷林の見学会  
根井仁一さん宅 (城端町西明四〇八) TEL 62・0600  
石黒大俊さん宅 寺院 (福光町宗守三六〇) TEL 52・1414

会費 500円 (当日集金)

尚、マイカー乗り合いにて行きます。暑いかもしれないので水筒をご持参下さい。

申し込み 事務局  
また、友人お誘い合わせでどうぞ。下記に案内図。  
はがき又はTEL・FAXで。

天野一男建築工房内 砺波市表町七―二五  
TEL, FAX 0763―33―6588

## □害虫防除予報

五月三日頃からサクラ、ニシキギに毛虫が発生。カキの新葉を喰う五ミリほどの(黒色)虫も多発。毛虫の出がけであれば、タイマツ駆除がよい。いずれもスミチオン千倍液を撒布してやること。またモチ、モッコクにカイガラムシが出ています。これもスミチオン八百倍液で早い時期に限る。

浄光寺にて発足会

石崎安次郎氏宅にてシダレザクラの見学